

---

# こねこ、ねこねこ

麻生柚葉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

こねこ、ねこねこ

### 【著者名】

Z6003M

### 【作者名】

麻生柚葉

### 【あらすじ】

この おはなしは ちいさな こねこが であった ゆうくんとの おはなし  
ゆうくん だいすきだよ！ ゼッたいに つばさのこと わすれな  
いでね！－

小さな家出子猫が不器用なゆうくんと出会います。そんな一人のほのぼの過ごす一週間のお話。そして可愛い恋のお話。

## 01・じめのうた　1のまじまじま（読み書き）

このお話を「こねこ」である幼児視点（よつねは平板なまづかり）です。  
苦手な方は「注意ください」。

## 01・「おれのこ」の意味

これが「おはなし」あるのせ、となるやうに「おれのこ」は「おはなし」ではありません。

「おれ」の で

「おれ」は ひとつ道に立ちつくしていました。  
まわりに知っている人は だれも いません。

「おれ」、「おれ」、「おこ」の「おれ」  
「おれ」は ひとつまつち

だけどね、「おれ」は 泣きません。

だって ほんとうは 「おれ」は 「おこ」じゃ ないんですもの。

“「おこ」” じゃなくて “「おこ」” なの。  
ひみつだよ。

「おれ」、「おれ」、「おこ」

こねこは のぞんで ひとりぼっち

お家にね かえりたくないの。

だつて、だつて・・・

それはね、おしえてあげない。ひみつだよ。

りゅうは おしえて あげないけれど、こねこはお家をとびだした！

走つて走つて、じりんで、走つて  
見たことのないところが たくさんあるよ  
知つてる人も だれもいないよ

ちいさな ちいさな 足で走つて  
こねこは とっても だいまんぞく！――

知らないところは わくわく だいぼうけん  
これから ビニに行こうかな

『ねえちびっ子、こんな所で何やつてるの？』

そんな、ひとりぼっちの こねこに一人の大人がこえをかけました。  
こねこは とっても びっくりしたの

だつて、『いえで』がばれたら お家にかえらなくちゃ だめ  
それには、知らない人には気をつけなきゃいけないんだよ？

だけどね、だけどね。こねこに こえをかけた その人は  
ちょっと こわいからをしてたけど、おめめがきらめり きれい  
な人  
笑わなかつたけど しゃがんで おめめを あわせて あたまを  
なでてくれたの  
それには こえが とつてもやせしかつたの

『ちびっ子?』

『・・・いえで』  
こねこは すなおに おしえたの  
だって、この人のこと 気にいつたんだもん！

そしたら もつと こわいから  
おこじれちゃうのかな？

だけどね、お家にかえりたくないんだよ。

『家はどこなの?』  
『ひみつだよ。』

これはね、ぜつたい おしえてあげないの  
そしたらお口をへの字にまげて ためいき ひとつ

『はあ、仕方ない。見つかるまで預かるか・・・』

こねい、ねこねこ あこせな いねこ  
あこせな おててと おおきな おててが つながつて  
こねいは ひとつまみあじやなくなつて、ふたりになつたの

ちこわな いねいが だいすきなのは ひとつも ひとつも やさしい人。

ゆうくん 十七さい ひとつもプリンがだこすあい ひとつもキンジンがだいきらこ。せがたかくつて ひとつも かつじこ

いねい と むづくさ

いねいは その人に手をひかれて あたらしこお家にやつてきたの いねいのお家より小なかつたけど、いねいの お家じやなかつたら どいでもこいよ

『ちびっ子、家出の訳とか聞いてあげるから。』  
『ちびっ子じゃないよ。』

お家の中の ソファーは ふかふか どびはねたくなりました。 いつのまにか その人は 手に 一つのカップを もつていて。 いねいは だいすきな ホットミルクをもらつたよ。

『 つばまれ だよ。』

わい、 いなじは つばまれ つてこいつ なまえなの

『 業は わいっ だ。』

『 わいへんー。』

『 ・・・わいへん・・・か。』

わいへんは へんなかおして あたまを かきました。

『 だめー。』

『 こや、 間體無こよ。』

わいへんは、 わいへんは あいこわいこます。

わいへんは、 つばまれの あたまを なでるのよ。

わいへんは あたまを なでるのが すき みたい。

『 われでー。』

『 へー。』

『 どうして家丑ついたのー。』

『 なこしきだよ。』

つばまれは しーーー つて わざを 一本 むへり おへり。

わいへんは、 わいへんは いわこかね

わいへんは、 つばまれ トコロ せつこ

『 ・・・こらやこひ。』

ひざわせ おまつ の いたれり なみだめ  
うつへつて うなつて ゆづくさる いりあつたなど まだ こわ  
いかお  
せつづく はんたい

『黙田。』

『やだ。』

ゆづくは つばわの 前に手をちかづかべる うつへつて うなつて  
の じゅうび  
・・・せつづく はんたい

『こつしゅうかん』

『・・・。』

『こつしゅうかんだけ、おねがい。』

『ゆづくは めいわく かけないよつてあるから。』

しゅんと おみみを たらして ふるふる ふるふる つばわ

『いいだない。こつしゅうかんでお家にかかるから。おねがい』

ひざわの うねうね おめめで うわめづかの いりあつた  
ゆづくは うねうね うねうね ダメージをうけた!!

『・・・さあ、わかった。わかったよ。一週間だけだからなー。』

ゆづくは うつへつて うなつて ゆづくさる いりあつたなど まだ こわ  
の じゅうび  
・・・せつづく はんたい

「おつてる人を ほおつておけなくて、みすてられなーの  
びつくりするくらー おひとよし

ちゅるー！ なんて おもつたのは ひみつ  
れーひつからないか だまされないか ふあんになつちやつよ。

だから、つばさが いっしゅうかんだけだけど おれいこ まもつ  
てあげるからね。

「いや あなた しさをよせへ いやこかね。 おへりは くの字  
ふりかけりび  
だなびね ゆめーへ 見て見てー。  
おひへんは かみりぱつぶわよつだけで ほそいは せかし  
がつやせんなんだよ。」

いねり の ひよじより

「ませやせ ふじに おひへんのお隊に こわしうかん おとおつ  
かるじが たいてこしたよー。  
やつたねー！」

『あー、ひませの洋服とかどうあるかなあ。』

「ませやと おひへんは 大きやが ちがつかり かりゆじとは で  
おおせよ。  
おひへんは じめたよひに 口をかぶつと ぬがめるよ  
おれこらを かくにんしうつとしました。」

『だいじゅうべつだよー。』

つばれせ セなかに セおつたリコックを見せめす。  
中ひせ むひふくに パジヤマ ばぶらじセシット、セネトウヒヒ  
の むかし

おとめじセシットが ゼんぶはーつてます。

『らうひ子の癖に用意周到だな、おこ。』

『つぶら。 つばれせ ほんせで こえで しめたんだから。』

だつて、つばれせ ほんせで こえで しめたんだから。

\* + \* + \* + \*

ばれせの じかん せじゆく食べる むひくの ハベリ  
『じせき

ゆづくの じはんは とつても おこしい。

これが “あこじゅうたつぱり” つてやつだね！

すれせりこは だめ つてこつぱり、ゆづくの おれいに  
ジンがのつてないのに きづこかやつた。  
つばれせ やれこ食べれるよ

『ゆづくの いんジンあげる』

『何だ？ 食べれるって言つたじやないか。』

『ゆづくが やりいなんでしょへ。おれいに いんジン なこよ。』

『・・・う、先に食べたんだ。先に。』

『「つー セー つー セー』

『れじやあ どひがが じどもか わかんないよ。ゆづく。

『はんを食べたら はみがきの じかん

『何だ? 寝る前にすれば良こじやないか。』

『だめだよ 『はん食べて すぐじやなこと むしばになるよー。』

『お前そんなりで案外しつかりしちるんだな。』

とづせんです。 ゆづくは 一言よけい  
しぶる ゆづくんを ひっぱって、せんめんじょで 一人 なら  
んで はみがき  
いつも 一人だから ちよつとだけ くすぐりたい

ゆづくんは キッチンド やらあら  
つばわは ンフターの上ド テレビ

つばわも おてつだいしたこのに

『危ないから つばわは何もしなくて良こよ  
つて ゆづくんは言ひ。

つばわにも なにか おてつだい できぬことは ないのかなあ

おせりかいで セわせきで しんぱいしづつ  
しまつてゐる人を ほづつとおけなくて つにつに たすけあやつ  
見てるこいつが あぶなつかしく おもつかり、せじめじして  
ね。

いねいの おふり

『そーで、風呂入るわ。』

『うそ。あがるのまつてゐる。さみいり。』

ん~。と まゆをよせる ゆうべど。

つぜんの くびねりじを つかむと ひょこつと もりあがりや  
ました。

いつきに高くなる しさと ちかくなる カリカリの むぬ

『何並ひるんだ。一緒にに入るわ。』

『ダメだよ。ゆづくん。』

『何でだ?』

『おとこの子とおとこの子は いつしょに はこつかや だめ!』

『男と女って・・・お前ちびだから問題ないだろ。』

『もんだい! だいもんだいなの!!』

いつも一人ではいつてるから だいじょうぶなのよ

じたばた あばれて おつくれの手から のがれると しゅた! つ  
とかれいに ちやくち

『ちよつ、 でもなー。』

『セクハラつていうんだよー。そつこりの。セクハラはんたいーー。』

『あー、もう分かつた分かつた!』

つばさから入つて来い。注意して氣をつけ入るんだぞ。』

『はーい。』

もつてきた パジャマと かしてもらつた タオルをもつて いざ、  
おふろばへー

『せつたこせつたに、のぞこちやだめだからね』

『はーい。氣をつけろよ。しつかり洗つて、肩までつかれよ。』

おふりは つばさの だいすきな じかん  
体をきれいに あらつて サッパリするよ。

おつくれんがおふろばの外で おつくれんしながら わきみみを たて  
てたの しつてるよ。

つばさが おぼれても すぐ かけつけられたよつこ してたんだ

よね。

むづくんせ ほんとうに しんぱいしよう なんだかひ。  
だからね わざと おうたを うたつたり、  
ゆぶねに つかるとあは じえを だして かずを かぞえたの

これなら、あんしんでしょ？ ゆづくん

おふろから あがつたら ゆづくんが あたまをふいてくれたの  
だからおれいに、ゆづくんが おふろから あがつたら つばさが  
ふいてあげたの。

つばさの かみのけは ふわふわ だから ぴょひょひょ はねた  
けど

ゆづくんの かみのけは まっすぐで ペったんこ  
いいなあーって むもつたら、ゆづくんも おなじこと むもつた  
んだつて。いつしょだね！

こんなこと はじめてだつたから たのしかったよ。

\* + \* + \* + \* +

よここは もう ねるじかん  
ベジたは 一つしかないから、じこはがまん  
おふろあがりだから ぽかぽかして あつたい  
ゆづくんが あたまを やせしく なでてくれるから  
とっても じこちよくて ふわふわな きふん  
これなら ぐつすり ねむれそう

おへんなの はなこひつまわせ ねやすみなわこ。

そんな みづくんに にねりせ じーをした  
あじがれ なんかじやないよ。 これは れつせとした じこりせ  
チヨウノートみたいに あまくて かわいい じー。

このおもひ

だれにだつて にがてなものは あるんです。  
つばさにも・・・ もひるん ゆうくんにもねー

その日の お外は あいにくの 晴れ一やー。  
せっかく ゆうべと おでかけしようつて  
こんどに もちこじ。 とっても ザンねん。

てゐてゐる所が、あは  
つくりたから あした てんきになあれ！

『おーおー、ずいぶん不恰好なてるてる坊主だ事。』  
『むー』

かみへんせ たまに いじわるです。

『まれみり、僕の上手へできただる。』

『どうだ… と、てるてるぼうずを つきだしてきます。』

ちゅうじゅこ まんまるおかお。むすぶところも きれいです。

だけじね ゆうべん。

『・・・へんな かおなの。』

ゆうべんは えを かく センスが ありません。

『ハハセー。』

きれいな かたちの ゆうべんの てるてるぼうず。ちゅうじゅな  
つばちの てるてるぼうず。  
まどに ならんで つるされて。一人は どうでも なかよし な  
のです。

まどのお外は やー やー 泣きむし  
ゴロゴロ ぴっかんー おこりんぼ

かみなりさまが ゆうじゅ おもわす つばせせ ゆうべんこ  
タックル

『二、やーー』

\* + \* + \* + \* +

その日の お外は やーー 泣きむし。  
だけじね、おこっては ないみたい。  
おでかけは またあしたに もちこし。  
ざんねんだけど あしたの てんきよほつせ、にこいつ はれマーク  
あしたは おでかけ いきますよつこ

しょうがないから めよつは テレビに くわづか  
二人 ならんで ソファーに すわって なかよしよしの テレ  
ビかんしょうかい

『・・・つー』

『すつー』『ねー、ゆうべん。おばけさんだよ。』

みているものは ホラーのとくばん  
つばやは じゅうじゅうの だいすき!  
だつて、ほのものは 見たことないから こわくないよ。

『おまつ、怖くないのか・・・

見かけによりよ、度胸あるな。ひーー』

『ゆうくんが ゆべぎょつな だけなのよ』

わらわらり オめめは いぬいぬ いぬで

『だつて、ほり見ひよ。『持ひ廻このが眞正ひつひぬ』。『だこじゅうぶんへいわせ ほこひが ほもつておはるかひ』。』

『それま、頬もこじとじ。・・・。』

ふるふる ふるえて まつわお おかお  
それでも ハレベキ サクナコのま、つまが たのもしこから  
だよね！

ハチヒ がくけたのたがく がくくへと かくへと まくへと  
こつせと たがく がくくへと まくへと かくへと まくへと  
ひき がくくへと まくへと かくへと まくへと かくへと まくへと

トレスの母むは ねばねが たぐわる。  
ひき  
くびだけ ねばけが あらわれて つばねは まくへと  
だきま  
く

『.。——ちあく。』

人から おぐ いがこねねかわ おいく  
ほんといは やおここに まばたなこ せかかしがりやわな お  
うくん  
だれよつも あひたかくし やかここ おいく

いはい と やかここ

おいくと ねる よるは いつも まかほか あひたかい  
だなびな、 やなうは ちがつたの

つまはせ とひしむじわこ おぬをみて  
いわくで いわくで どびおわい  
すいじく むねが くるこよ

まわくり ゆるが おもひてきし おひれわせ せむしおせ  
くわくわくした。  
つまはせ と つまはせのまへ。 つまはせ やひと 食べたかく  
わくわくした おいくと おいくと おいくと おいくと

そんなのニヤだよおーくん。  
あーとアーバンニットがニト

泣いちゃダメ つばさは つよい子だから 泣かないの  
これは ゆめなんだから 泣いちゃダメ。

わがままも 言ひちやだめ

ひいへんとほ もうすぐ おわかれしなくちや いけないの

ゆうくんは となりで ねむつてゐる。だこじょひつぶ。  
だけど つざわせば ひとりぼっち なの

『おーおー。』

『アーリーさん?』

おおむね  
かくし

ねごとで  
ねこ  
なつぢやつた

これがなつ ひやかわひ うそせせせ おひへんに  
あかーひと くひつく おひへんに うそせ

やさしく  
あたまを  
なでられて

あつたがくつて といつても あんしんするのです。

おねがひの おうくんは あぐこ めのなか  
といつても いかくで しんしりのとが あいじゆ

『 ひまわり。 ・・・ わにや ひな』

おひくに ひまわりの あめを 見てこねのへ  
しあわせやな かおを してるのよ

なんだか あんしんしたら また ねむくなつてしま

つめか ひまわり おひくのとめの 見たると ここな

すなまで しゃべらなのう うなづく でなまこ あめのじゅく  
な おひくさ  
たまに うどんかくしもく むわいなつて かわこ おひくさ  
てねわせ ねよひなのに かこかくが ぶらもつね おひくさ  
いねり と ドード

ねうわせ うなづく おひくさ おわいせ うわせ うなづく ここひんせ  
おひくさ おひくさ おひくさ おひくさ おひくさ おひくさ おひくさ

…

『おひくさ・・・かひじこゆ』

おでかか フラッシュ ぱひかつて  
ぱひつか かぶつた おひくさ こひじこじゅう かひじこ

『・・・お邊も可憐こよ。』

ふいっと かおを そむける ゆうくん  
てれちやつて それを かくそつとしひるのが バレバレン たいど  
『ぱいしを ふかく かぶつても おみみが まつ赤に なつてるの  
つばさからは まる見え なのよ

やつぱり ていせい ゆうくんは かわいい

おででを つないで 行つてきます！

わよひは どいく 行ぐのかな？ わくわく

\* + \* + \* + \* +

やつひきました。おかいもの！

つばさが ゆうくんとなら どいくでもいいよ つて言つたらね  
『ゆうは ゆうくんが 来てみたかった おみせ なんだつて

ふわふわ きらきら かわいい やつかが いっぱい あるのね  
ハートのクッション、みずたまパジャマ、いいにおいの セッケン

てれやな ゆうくんは 一人じゃ 入れない おみせ なのよ

『やつぱり、 いつこいつ店は僕こな合わないな  
『わよひ？』

ゆうくんは まゆをよせた くしょ「ひしゃみ  
つばさには わかる ゆうくんの じまつているかお  
だけど ゆうくん。それじゃ おわりの人に おひつして か  
んちがい もれちゃうよ

『シンプルの方が落ち着くからな』

つばさは にあつと おもうかご  
いつも かつこい ゆうくん。 だけど かわいいところも あ  
るから だいじょうぶなのよ  
知らない人が 見たら おどろくかも しれないけど かわいいも  
のが あわないなんてこと ないよ

『・・・おっ、これなんかどう?』

わたされたのは ちじせこ つばさには かかるほど 大きな  
ねこの ぬいぐるみ  
おめめの色と おみみの色が いつしょで まるで つばさの ぬ  
いぐるみ なのよ

『お前、それ似あつな~』

『やうへ~』

『うふうふ。つばさが一人いるみたいだ。よし置おひ。』

『ぼくは いっちのが いいのよ』

つばさが もつてきたのは ねこと おなじしゆるこの かわいい  
「つわざ」の ぬいぐるみ

『ん? そつとも可愛いが、お前つわざのが好きなのか?』

『うわ。 おひさまのよ。 あへへ。 おひさまへー。』

『あいか?』

『うんー。』

『うこ色は おひさまの かみのけのよ。 だから くわいわいが  
ぴったつー。』

『わわわわ ひざわ。 ねいは おひさま。』

おたがこの ぬごぐるみを もう ねんこ なのね。

『あれこれでも、遊園地みたいな所じゃなくて本郷に良かったのか  
?』

『いいの。 だひて おひさまが おひさま ないや。』

『だひて、おひさま うこ色しちゃ  
うひ、と うひまに うめの おひさま』

『あれ』 うわおのれなーの おおこもー』

『まつ、それわいだなあ・・・・・』

『うわかな 食べたくなるのね』

『じゅ、水族館ー。』

『・・・じゅ、映画館ー。』

『ねめーの みても ここんだり』

『うん。 買い物でこーな』

「 さうなによ。  
だから、ゆづく。 ひの おみせに パー！ なのよ。』  
『 ゆづく。』

二人の たのしい おかいものは まだまだ つづくのよ

知らない人が たくさんいた あのばしょで  
こえを かけてくれたのは きらきら おめめの ゆうくん  
きっと あのとき こねこは こに おちたんだね

こねこ が まごい

たいへんです。

ゆうくんが まごいに なりました。

つばさりじゃ ないよ。

ゆうくんが まごいなの

はぐれないように おでてを つないでたはずなのに  
人なみに ながされて、氣がついたら ゆうくんが いなくなっち  
やつた。

ゆうくん どこにいるの?

まわりは みんな 知らない人ばかり

おかしこな わいへんに おひょうせ、 “ こべで ” したとわせ  
いわべなかつたのに  
ビハーハかな わいへん。

わいへんの いわせを もよひと だれしむ  
いわせ いわかなく なつまつた。

わいへん、 わいへん。 だこあわな わいへん  
いわせじやなへて わいへんが ぶるに 食べりさらつたの？

『 わいへん 』

そんなの だめ！

いわせ わいへんを もよひて もよひ  
だから、 泣かなによ

だこすれ だこすれ。 わいへんが だこすれ。

よねに 食べりだれやつたなら

いわせ わいへんを たすかにこかなへわや

負けりや だめ！

いわせ、 いわせ、 ・・・・

『 つばめやー。』

『 それも もりして 走つてきてくれた むうくん  
つばめやの かおを 見るなり だきしめました。』

『 お前 小さこから、見つかんないかと思つてホント焦つた。』  
『 うん。』

『 うへんは あんまり かおに でないけど  
うへんは しんぱい してくれたんだよね  
うへんはのうじだもん わかるよ。』

『 でも良かつた、見つかつて。怖くなかったか?』

『 ・・・ うん。』

つばめや うへんの うへんの やでを つかんで すりよつ  
ます。  
うへんは なにも言わずに もうつと だきしめしてくれました。  
よしよしと いつものように あたまを なでる やをしこり  
ひとつと、ひどこれ。ひとあんしん

ひとつと、ひどこれ。ひとあんしん  
ひとつと、ひどこなのは

だから、うへん

つなこだてば、またいたい はなしゅや だめなんだからね

いねじが わみしことをに やばにこいてくれて  
いねじと はなればなれになつたり こちばんに みつけてくれて  
いねじを・・・ いねこのことを たすけて まわしてくれて

いねじ こ おくつもの

もへ おでかけは とひぶん したくない  
もへへんの お家が つばれせ こねせん ねねつへのよ

『つばれ つばれー』  
『いこ ゃー』

もへへんこ よばれて ふりむけば いきなり カシヤつと まぶ  
しい ひかり  
めを ポジポジ いすうひ もへへんを こひめつたぬと ものこ  
には カメラ

『いつもお前は変な顔だな。』

それは ゆうくんに 言われたくない  
つばさは プリプリ おこつちやうんだからね！

だけどね いつも ぶつちゅうづらなのに ちよつと うれしそうな ゆうくん  
そんな かおを見たら まあ いいやつて おもつたの  
きょうの つばさ ちよつと 大人？

『ぼくも とる。』

『つばさ、わあーよじ登るなーちよつ、やめつー。』

やられてばつかじや きにくわない！  
そつくり そのまま やりかえすよ

『とつたー！ えい！-！』

『おい！』

はしゃぎながら おいかけっこしながら とる しゃしん  
いちまい また いちまいと ふえる 一人の しゃしん  
たくさんの わらいこえと たくさんのがわせ

データが いっぱいに なったときには 一人とも クタクタ  
だけど とっても たのしくて  
へやに 大の字に ねこがって 一人して 笑ったの

たくさん とつた しゃしん プリントして アルバムに入れて  
ゆづくんは プレゼントしてくれた  
うれしい うれしい

だいすきな ゆづくんが いっぱい  
つばさと ゆづくんが たのしそうな しゃしんも いっぱい  
へんなかおも ぶれてる しゃしんも はみだしてる しゃしんも  
たくさんだけど  
せんふせんふ たいせつな おもいで

ひとつも すてきな たつた一つの プレゼント

『ゆづくん、 ありがとー。』

うれしかった おもこつせつ ゆづくみの 口に とびついた

うふふ。 ゆづくん だいすきだよー。

せんぶ せんぶ ひつぐるめで ゆりくんがだいすんだよ。

こねいは とっても あつたかいきもちになつました。

ゆりくんと こいしょに いられ せんとい たり しあわせひつた。

こねいの おかえし

つばわは かんがえました

くわこつわわの ぬごぐるみ、おもいで こいぱー アルバム

つばわは ゆりくに もりひ ぱかりです。

だから ゆりくんが ぬごくみづな プレゼントしことー

おかねは すこしだけ もりてます

だけど つばわが かいに行くと ゆりくんに すぐ ばれひやつこ  
てれやな ゆりくは さへつて うつこつて うつこつて うつこつて

よひやな ゆりくは うつこつて うつこつて うつこつて うつこつて

それは だめー

だめつたら だめーー

リコックの 中にせ むとまつセシドだけ  
おかしさ もう ひとつ むかしに つぜれの おなかの中  
なにを あげたら ここのかなあ?

むづくんな なにを あげたら ゆづくんで くれるかな  
あつとね ゆづくんな やせこから なにをあげても ゆづく  
じゅうね!

だから よーく かんがえないと だめなのよ  
とびつ めつ すてきな プレゼントじゃないと だめなのよ  
むづくんな ばれないと ゆづくんなが ゆづく プレゼント  
あむのかなあ・・・

\* + \* + \* + \*

ねらにゅいは ゆづくとが ジはん つづいてると  
そして ゆふる せこいつるとき  
そのとれ つせきは テレビの ジかん

だけじね かみを とりだして  
一人で ゆづそつ おえかきの ジかん

かづここ かづくん かわいい ゆづくん。それに ちこわな  
つづく  
くづこづくの ゆいぐるみに つづくないの ゆいぐるみ  
おひねま くも オはな おこしかつたじせん ゆづくんの すけ  
な プリン

ちよつと こじわるして おひへんの めりこな ねばとも かい  
たの

たくせん おもこで つめこんで、たくせん おこじゅう つめい  
んで  
いつしょつかんめい かいたのよ  
とつても すてきな えが こつぱい。

そして つこに かんせい つばせ がほぐの れこじりはたわく  
うふふ。 ゆりこさんでくれると ここな

『つばせりへ。』

かよひびよく おふろあがつな ゆうくん  
しめた かみのけ タオルは あたまに のっけてるだけ  
ちやんと ふかなきや だめなのに

『どうした?』

『おひくさん おひくさん うぱんがんのよーー』

よろこんぐれるかな?

おどりいた かおの ゆうくん

ありがとなつて となりに すわって あたまを なでて くれま  
した。

いちまい いちまい おひくつと見て  
ゆうくん、いつも つりあがつてゐる めゆげが だんだん 下がつ  
て あたのよ

そしたら ふるひの ひるひて あまつと むしろで だれこむ  
くね おねがい

あれ、おじいさん、かわしそうがて 泣こちやった?  
ひざわせ つみな子 なのね

## 11・「わいわわかれ

わいわん だいすれだよー

わいわんとの でいに かんしゃします  
そして たくさん の つたえきれない ありがとうを おへります。  
わいわんと こねこの こゆびには “ つんめいの 赤い いと ” が  
つながってるよ  
だから ほかの人に ついていつひや だめだからね

こねこ と おわかれ

わいわは わいわんと どうして こいつしかん  
わいわんとの おわかれの日

とつても とつても いやだけど  
すつじく すつじく かなしいけれど  
つばさは わがまま いわないよ

だつて わいわんに きらわれたくないもん

『本当に一人で帰れるのか?』

『だいじゅいふなのは いじめで 一人 でせたんだし かべる』  
とや でわるのよ』

いじめ おひくんに せじめて あつたばしょ  
うふめこの であいをした おもこの ばしょ

『おひくん』

『なんだ?』

『おひくん おひくん だいすきだよ  
せくが おおせくなつたら けつこうしてね』

そしたら おひくん おめめ まんまる びっくりな かお  
つばさの ゆうきを だした あいの いぐわ  
それなの おひくんは とつとも しつれい

『いや・・・あのは、お前勘違いしてたけど僕は女なんだよ。  
男っぽい・・・つてこつか、殆ど男装に近いんだけどな。女なん  
だよ。これでも

だから、無理かな。』

『どうして?』

『いや、だから女回士は・・・』

『おんなの子と おとこの子は ちつとも でわるよ。』

おひくんは おんなの子 ほくは おとこの子。だから だいじ  
よつぶる

おひくんは じぶにじぶ じぶちこ なのです  
おこしゅは おひくんのいと おとこの子だと おもつたがい

つばわせ すぐこ 気づいたよ  
それなりに もうへりせ やこしまで つせわせ みんなの子だと  
おもつてた

『男・・・。まじで?』

『うん。ほんと だよ。』

『気づかなかつた・・・。』

『ううだと おもつたのよ』

『まじで おもつたのよ』

たしかに つばせは おんなの子っぽいし、  
よづくは ぜんぶ ひめおねえちゃんの おせがりだから。

いつ気づくかな?つて だましだたけど  
れこれの やこしまで 気づかないなんて・・・  
にぶにぶ にぶちん!

そんなんじゅ すぐに だまされかけついよー<sup>1</sup>  
へんな おどじこ やらわれちゅー!  
つばせは しょぼこだよ もうへり

『それで それで! おへんじは?』

『あーうん。そうだな

つばせが大きくなつても僕の事が好きだつたら、考えてやる』

『うん! わかったのよー! やくわく なのよ。

ずっと ゆづくことのこと すきだから だいじゅつぶなのよ

『あやーっと しゃがみこんでる あいへんび だれつこて  
ふこか ここへ あいへんの 窓口を かわいい かわ  
つばさの れこしゅの まーる あいへんこ あさけや はのく

『くへ

あいへんは こみがわからず まぬがびり  
つばさは あいへんこ ねいひだるまへん てげました。  
やつこば ばくさこ

あいへんは かひ じよへなつて かえつてくらかひ まつてし  
ねー。  
あいへんを まもねねむひつ てよくなつて かえつてくらかひ  
まつてねー。

それまで・・・

『あいへん バイバイーーー』

「ねこ」、「ねこ」

これがり ねはなし あるのせ、とある ねこねな いねいの ね  
はなしです。

ちこねな いねいが だいすきなのは とつても とつても もれ  
しい人。

ゆうくん 十七歳こ とつてもプリンがだいすきで とつてもーん  
ジンがだこねりこ。

せがたかくつて とつても かつこここ

いつも ねこに しわをよせと こわこかね。 ねくべく への字  
ぶつぶつぶつぶつ  
ひびきひびきひびき

だなびね ょーへ 見て見てー！

ねくべくせ ちよつぴりぶきよつなだけで せきとくせ せきかし  
がつやせんなんだよ。

ねせつかいで セわやきで しんぱいしょり  
こまつてゐ人を ほうつておけなくて つじつゝ たすけちやう  
見てゐるこゝが あぶなつかしく おもうけど、いやなわけじや  
ないんだよ。

そんな ゆうくんに こねこは じいをした  
あこがれ なんかじやないよ。 これは れつきとした こころいろ  
チョコレートみたいに あまくて かわいい じい。

人から すぐ じかにされぢやつ ゆうくん  
ほんとうは やみしいのに 聞えない ばずかしがりやさんな ゆ  
うくん  
だれよりも あつたかくて やせこ ゆうくん

すなおで しょうじきなのに ことばに できない あまのじやく  
な ゆうくん  
たまに ジジもひょくて むわになつて かわいい ゆうくん  
てわわは めようなのに せいかくが ぶきよつな ゆうくん

こねこが やみしいときには そばにいてくれて

こねこは はなればなれになつたら こちばんに みつけてくれて  
こねこを・・・ こねこのことを たすけて まわつてくれて

ぜんぶ ぜんぶ ひつぐるめて ゆうくんがだいすきだよ。  
こねこは ひとつでも あつたかいきもちになりました。  
ゆうくんと こっしょに いられて ほんとうに しあわせでした。

ゆうくんとの あいに かんしゃします

そして たくさん つたえきれない ありがとうを ねぐります。

ゆうくんと こねこの いゆびには “ つんめいの 赤い いと ” が

つながってるよ  
だから ほかの人に ついていつか や だめだからね

ゆうくんが だいすきだつて こじらのそこから セナベるよ  
こんどは ぼくが むかえに いくから  
ぜつたい わすれないで まつててね。  
あぶなつかしい ゆうくんを こんどは ぼくが まもつてあげる  
から

それまで、たみしげけど おわかれだね  
かわいいなんて 言えないくらい かつじよべ せこりよつて  
かえつてくるから きたいしててね

これで こねいの おはなしさ おしまこ  
このあと、せこちゅうした こねいが むらべへんを むかへにきた  
かどりかは・・・

また ベツの おはなし

おしまこ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6003m/>

---

こねこ、ねこねこ

2010年10月10日04時26分発行